

平成27年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT27226 飛鳥人の日常生活を知ろう～時間と文字～



開催日：平成27年8月4日(火)  
実施機関：関西大学  
(実施場所) 千里山キャンパス  
(第1学舎A棟 実験・語学教室2)  
実施代表者：米田 文孝  
(所属・職名) (文学部・教授)  
受講生：小学5・6年生 21名・中学生 1名  
関連URL：<http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/info/detail.php?i=158>

【実施内容】

◆プログラムの実施で留意・工夫した点

事前に該当学年の小学校社会科教科書を検討し、実施分担者や協力者と協議を重ねながら、小学生5・6年生が実施内容を理解できるように、基本的な実施内容とスケジュールを計画するように努めた。

本プログラムは2部構成とし、講義を受けてからワークショップに参加することで、基礎的な知識を習得し、体験学習での学びを深め、受講生の集中力を持続できるように工夫した。

第1部のミニ講義「文明開化の時代・飛鳥」では、飛鳥時代はどのような時代であったのか、その特徴について分かりやすく伝えるために、専門用語にたよらず、写真を中心としたパワーポイントを使用した。また、本プログラムのテーマのひとつである水落遺跡に関するCG「水落遺跡と水時計」と、紙芝居「中大兄皇子と水時計」を上演し、視覚と聴覚に訴えることによって、当時の飛鳥時代の具体的なイメージを持てるように工夫した。その後、受講生の理解・到達度を確認するため、飛鳥クイズを実施した。

第2部のワークショップでは、受講生の自発性と協調性の涵養・促進を目的に、2つのプログラムを用意した。実習①「木筒づくり」では、作成前に木筒がどのようなものであるのか、簡単な講義と作り方を説明し、木筒づくりを行った。その後、実習②「カルタとり大会」では、飛鳥時代を中心とした歴史かるたを用いて、カルタとり大会を実施した。

実施時には、補助の大学院生・学部生が受講生に個別に対応・支援できるように配置した。受講生の関心と集中力が低下しないように工夫し、講義内容を再確認できるように配慮した。



飛鳥戦隊四神ジャーのスー（上）とタイガ（下）のお出迎え！

◆プログラム当日のスケジュール

当日のスケジュールは、以下のように、開講式の後、代表者によりミニ講義を行った。その後、水落遺跡に関するCGを上映し、さらに水時計が造られた背景をテーマとした紙芝居を上演した。昼食後は、2種類のワークショップを行い、修了証書授与式を行った。

- 9 :30~10:00 開場・受付(博物館前)
- 10:00~10:10 開講式  
(挨拶・趣旨説明・科研費の説明)
- 10:10~10:30 ミニ講義「文明開化の時代・飛鳥」
- 10:30~10:40 休憩
- 10:40~10:50 CG「水落遺跡と水時計」鑑賞会
- 10:50~11:00 パペットによる紙芝居  
「中大兄皇子と水時計」上演
- 11:00~11:10 休憩
- 11:10~12:10 飛鳥クイズ大会！
- 12:10~13:30 昼食(受講生・ご父母との懇談)
- 13:30~14:30 ワークショップ①(木筒づくり)
- 14:30~15:00 クッキータイム  
(受講生・ご父母との懇談)
- 15:00~15:50 ワークショップ②(カルタとり大会)
- 15:50~16:00 休憩
- 16:00~16:30 修了証書授与式  
(アンケート記入、未来博士号授与)
- 16:30~17:00 四神着ぐるみとの記念写真撮影会
- 17:00 終了・解散

#### ◆事務局との協力体制

事務局で委託費の管理や支出報告書の確認、日本学術振興会への連絡調整、提出書類の確認・修正などの支援を受けた。また、物品購入、アルバイト学生への謝金、受講生の保険加入などの事務手続き、学内関連部署との連絡調整、会場の運営、アンケート集計などの協力を得ながら、迅速かつ効率的なプログラム推進に努めた。

#### ◆広報活動

事務局や博物館と連携し、近隣の小中学校を中心にチラシ・ポスターを配布した。また、同日に開催された「キッズミュージアム」の広報活動とも連携し、ポスター・チラシに募集案内を併載した。さらに博物館HPに募集案内を掲載し、効果的かつ積極的な募集活動を実施した。



講義の様子



飛鳥クイズにチャレンジ！！



ミニ講義「木筒って何だろう？」



ワークショップ① 木筒を作ってみよう！！



学生による補助の様子



## ◆安全の配慮

本プログラムでは、ワークショップでの円滑な遂行と安全確保のため、受講生6人に対し2名の割合で、大学院生・学部生の実施協力者を配当した。安全面における具体的な配慮・対策として、猛暑日が続いていたため、水分補給や休憩をこまめにとるように心がけた。屋外にある高松塚古墳壁画展示室の見学を中止した。木簡づくりの際には、木片をカッターナイフやキリなどを用いて加工したい場合、学部生に補助してもらうように配慮した。なお、不測の事態発生に備え、受講生・協力者の全員が団体傷害保険に加入した。

## ◆今後の発展性・課題

アンケート結果から、参加者から好意的な意見や感想を受け、充実したプログラムを実施できたと思料する。学芸員や教員を目指す学部生にとり、スタッフとして子どもと接する機会を提供できた点も貴重な成果であったと考える。

飛鳥時代における時刻制度や文字文化を導入した歴史的な意義を総合的に理解する本プログラムは、小学校における授業進捗の問題もあって、予備知識(事前学習)なしでは、必ずしも総合化できていなかったのではないかという課題がある。今後、小学生を対象とする場合には、飛鳥時代を具体的にイメージできる工夫が必要であると判断する。



クッキータイム♪



ワークショップ② 飛鳥かるたに挑戦！！

### 【実施分担者】

山口 卓也 博物館・学芸員

石立 弥生子 博物館・学芸員

【実施協力者】       8      名

### 【事務担当者】

辻 美穂 研究支援グループ

森岡 駿 研究支援グループ